

【暗唱聖句】「しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです」第一ペテロ 2:9

【日曜日・すべての民の中から】

申命記 7:6「あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、御自分の宝の民とされた」

神様は特別な民としてイスラエルを選ばれました。彼らは神様から選ばれるだけの特別な理由があったのでしょうか。そもそも最初に選ばれたのはアブラハムでした。アブラハムは神様がお命じになった通り、従順に神様が示す地に向かい、何度も疑いながらも子孫が星の数のように増えることを信じ、神様がお命じになるならと一人息子イサクさえ捧げようとして従順を示しました。このようなアブラハムのから始まった神様の選びは、息子のイサクに、さらにその息子のヤコブと受け継がれ、そしてヤコブの12人の息子たちからイスラエル民族が生まれたわけですが、イスラエル民族自体が特別に優れていたとか、それにふさわしい者たちであったわけではありませんでした。これは神様の一方的な選びであり、恵みなのでした。

エゼキエル 16:8「その後、わたしがお前の傍らを通ってお前を見たときには、お前は愛される年ごろになっていた。そこでわたしは、衣の裾を広げてお前に掛け、裸を覆った。わたしはお前に誓いを立てて、契約を結び、お前は、わたしのものになった、と主なる神は言われる」

この御言葉は出エジプトを経て、律法が与えられ、正式に神の民として契約関係に入れられたことを現わしたものです。「衣の裾を広げてお前に掛け」とは、結婚を求める行為を意味していますが、イスラエルの民がなぜ神様からの恵みを受け、選ばれたのかのヒントがあります。それは神様から愛されたからでした。アブラハムの子孫であるがゆえに愛されたのです。イスラエルの側には何も誇るべきものはなかったのです。これは私たちも同様です。

【月曜日・土地の分与】

アブラハムに与えると約束されたカナンのは地は、アブラハムの時代には実現せず、イサクの時代でもヤコブの時代でもありませんでした。まだ一つの民族としては小さすぎました。しかし、エジプトで400年もの間奴隷状態にある中で、どんどん増えていき、一つの国家を形成できるほどにまでなっていたのでした。モーセは神様がお命じになった言葉、『見よ、わたしはあなたたちにこの土地を与える』。あなたたちは行って、主が先祖アブラハム、イサク、ヤコブに、彼らとその子孫に与えると誓われた土地を取りなさい(申命記 1:8)を繰り返しました。いよいよアブラハムに語られた大いなる国民とするとの約束の時が来ようとしていました。しかし、この約束の実現には条件がありました。それは、申命記 28:1、15「もし、あなたがあなたの神、主の御声によく聞き従い、今日わたしが命じる戒めをことごとく忠実に守るならば、あなたの神、主は、あなたを地上のあらゆる国民にはるかにまさったものとしてくださる…28:15 しかし、もしあなたの神、主の御声に聞き従わず、今日わたしが命じるすべての戒めと掟を忠実に守らないならば、これらの呪いはことごとくあなたに臨み、実現するであろう」ということでした。神様の祝福は、私たちが神様の教えに対して従順であるときに与えられ、教えを破るなら祝福を受けられないのはもちろんのこと、それだけでなく呪いを受けることになるのでした。これは神様に一番近くに生きる特別な民なのに、神様から背を向かたからでしょう。しかし、そのことを通して、彼らは「主こそ神であることを知る」チャンスが与えられるのでした」

【火曜日・イスラエルの契約】

エレミヤ 11:8「しかし、彼らはわたしに耳を傾けず、聞き従わず、おのおのその悪い心のかたくなさのままに歩んだ。今、わたしは、この契約の言葉をことごとく彼らの上に臨ませる。それを行うことを命じたが、彼らが行わなかったからだ。」

イスラエルの歴史は、神様に対する背信の歴史でした。ダビデやソロモンの時代に、ほんのわずかな間だけ約束された領土を統治しましたが、結局エレミヤを通して神様が語られたとおり、「神様に耳を傾けず、聞き従わず、おのおのその悪い心のかたくなさのままに歩んだ」ために、「契約の言葉」の中で呪いのほうが臨むのでした。常に敵国の侵略に脅かされ、最後には北イスラエルはアッシリアに、南ユダはバビロンによって壊滅的な破壊を被るのです。これらは「それは私の声に聞き従わなかった、つまり約束を守らなかったから」と主は言われました。

**創世記 6:5** 主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、**6:6** 地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。

ノアの洪水の原因は、「地上に人の悪が増し、人々は常に悪いことばかりを心に思い計って」いたからでしたが、結局、悪いことを思いはかるといえるのは、神様の声に耳を傾けず、神様の教えに従わないということです。ノアの時代の人々も、イスラエルやユダの人々も同じ過ちを犯していたのです。

#### 【水曜日・残りの者たち】

**4:3** そしてシオンの残りの者、エルサレムの残された者は、聖なる者と呼ばれる。彼らはすべて、エルサレムで命を得る者として書き記されている。イザヤ **4:4** 「主は必ず、裁きの霊と焼き尽くす霊をもってシオンの娘たちの汚れを洗い、エルサレムの血をその中からすすぎ清めてくださる。」

国中が神様に背信しているようであっても、必ず主の御声に聞き従う者たちはいます。神様は民を見捨てられたわけではありません。その象徴的な存在として残りの民という言葉が何度も出てきます。彼らは神様によって残された人々たちです。真のイスラエルである残りの民は、審判を超えた未来の希望を担います。また、シオンは一旦神様の裁きによって焼き尽くされるような経験をすることになります。しかし、それにより汚れはすべて焼き払われ、シオンは清まり、新たになります。聖霊は時に焼き尽くす火となって古き人に死なせ、私たちに新たに生まれ変わらせてくれます。実に荒療治ではありますが、神様は何とか聖なる民の再生を試みておられるのです。

**マラキ 3:23、24** 「見よ、わたしは大いなる恐るべき主の日が来る前に預言者エリヤをあなたたちに遣わす。彼は父の心を子に／子の心を父に向けさせる。わたしが来て、破滅をもって／この地を撃つことがないように。」

マラキ 3:23、24 では、大いなる恐るべき主の日、つまり裁きの日がくる前に、主は預言者エリヤに象徴される人物を遣わすと言われました。ここでも、まだ見捨てられていないということがわかります。イエス様は、この人物はバプテスマのヨハネであると言われましたが、彼は父なる神様と私たちの橋渡しをし、それにより破滅から守られるように導く働きを担うとの預言です。実際には父なる神様と私たちの間で橋渡しとなられたのはイエス様であり、ヨハネはイエス様を指し示し、その道備えをしました。

#### 【木曜日・霊的イスラエル】

**ガラテア 3:29** 「あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。」

パウロは、「もし私たちがキリストのものであるなら、アブラハムの子孫、つまり霊的イスラエルなのだと言いました。これは実に驚くべき教えですが、アブラハムの祝福の約束は、肉の子孫から霊的な子孫へと受け継がれたということです。「キリストのもの」とは、26 節で「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子」となったということです。アブラハムの血肉による子孫たちには律法が与えられました。しかし、それを肉の力で守ることはできません。イエス・キリストを信じる信仰による義によって成就されるのです。ゆえに、この神様とアブラハムとの契約はキリストによって完成されるものであり、キリストを信じるすべての者がこの祝福に預かることができるようになったのです。キリストへの同じ信仰を持つ者たちは、聖別や国籍、社会的地位を超え、キリスト・イエスにおいて一つとなりました。ローマ 4:16 では、「従って、信仰によってこそ世界を受け継ぐ者となるのです。恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、単に律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです」と、パウロは述べています。信仰がすべてなのです。